

被災された組合員・家族の支援とJRの早期復旧に向けて

—平成28年（2016年）熊本地震発生に対する声明—

4月16日未明、熊本県熊本地方を震源とするマグニチュード7.3の大地震が発生しました。同14日に発生した最大震度7の前震を含め、2度も震度7の巨大地震が同一箇所で発生するという、これまでに経験したことのない地震により、未曾有の被災を生じています。また、16日以降も震度6弱以上の強い地震が熊本・大分両県をはじめ九州各地で発生し、多数の家屋が倒壊し、大規模な土砂崩れによる被害も発生するなど、各地で甚大な被害が発生しています。被災した組合員・家族はもとより、全ての被災された方々に対して、心からお見舞いを申し上げます。

この地震により、電気、水道、ガスなどの生活関連やJRをはじめとする交通機関などの基幹インフラに大きな影響が出ています。また、余震が続き、家屋倒壊の恐怖等により、今なお多くの方々が避難生活を余儀なくされ、不安な日々を送っています。

JR九州管内では、九州新幹線において、回送列車が脱線した他、少なくとも防音壁の落下が50ヶ所、高架橋の亀裂が25ヶ所見つかかり、全線開通の見込みは、現時点では立っていません。また、在来線においても、豊肥本線では土砂流入による線路被災が発生するなど大きな被害が生じており、同じく開通の見込みは立っていません。そうしたなか、一日でも早い開通をめざし、グループ労組組合員を含めた組合員が総力を挙げ、また、昼夜を問わず復旧に向けた作業に取り組んできた結果、九州新幹線の一部開通に加え、在来線においても開通する区間が増えています。まだまだ、全面復旧までの道りは長く険しいことが想定されますが、中央本部も組合員の皆さんと共に頑張っていく決意であり、改めて組合員と組合員を支えて頂いている家族の方に感謝申し上げます。

JR九州労組は、こうした事態を踏まえ、4月18日（月）に熊本地震に伴う被災状況の情報収集と被災組合員・家族、そして復旧作業への支援を行うべく「平成28年熊本地震災害対策本部」を設置しました。JR九州労組の総力を挙げて、被災された組合員・家族を支え、復旧活動を全面的に支援します。

また、4月16日、19日、21日には飲料水や食料品等の支援物資を被災組合員や各事業所に搬送した他、同22日には、第14回中央執行委員会を開催し、組合員を対象とした「救援カンパ」や被災地へのボランティアなど被災者支援の取り組みを確認したところです。

今こそ労働組合の本分である、相互扶助・助け合いの精神を発揮し、被災された組合員・家族の支援に全組合員が総力を挙げよう！JR九州労組中央本部は、その先頭に立って取り組んで行く！

そして、鉄道員魂を発揮し、地域の復興に欠かせない鉄道の全線復旧に向けて、全力を傾注しよう！

2016年4月22日

九州旅客鉄道労働組合（JR九州労組）